楽しい学び de クラスをつくる

Vol.02

大滝 文平

「ぼくは反対です…」

Hさんが下を向きながら振り絞るように言いました。6年生「総合的な学習の時間」での一コマです。卒業前の演劇発表会を開くのに、念願だった公共施設の公会堂を借りることができ、しかも学校行事なのでお金もかかりません。この知らせを聞いてみんな大歓声で大盛り上がり！･･･その直後のHさんの言葉でした。反対する理由など全く無いように思われます。授業者の私も、Hさんの言葉に「えっ？」。当然ながら周囲も「なんで？」「せっかくのいい雰囲気が･･･」「Hさん、みんなと反対のこと言う時あるよね」、みんな声には出さないけれど、こんな空気が教室に漂うのを感じました。

○なぜ、「子どもの見取り」が大切なのか？

「魅力的な教材があれば、子どもは生き生きと学ぶことができる」「指導法が素晴らしい先生の授業だと、子どもが集中して学習できる」。教材や指導法がよければ、いい授業が繰り広げられる。私も経験の浅い頃は、授業力を身に付けたい一心で、指導案集から教材を探したり、先輩の指導法を真似ようとしたりしたものです。ただ、学びの主役である子どもを置き去りにしたことが思い出されます。子どもの思いを見取り、その思いを学習場面で花開かせるのが教師の手立てです。学びを通して花開いた子どもは、さらに探究的な学びをつくることでしょう。さて、Hさんの真意は？

次ページから「子どもの見取り」について考えていきましょう。

◆ vol.02では？

「子どもの見取り」から学びをつくる
手立てのエッセンスがいっぱい！

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！
日文 検索

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

子どもの見取り３箇条

①子どもから学び続けるスタンス！
～子どもの見取りに正解などない～

②まずは、子どもウォッチング！
～「具体的な姿」をたくさん見取る～

③見取る視点を自分なりに持つ！
～型にはめず、柔軟に、継続的に～

①子どもから学び続けるスタンス！

●肝心なものは、目には見えない…

これは、フランスのサン＝テグジュペリが書いた『星の王子さま』の有名な一節です。子どもを見ていればその思いをすぐにつかめる、それほど簡単なことではありません。

子どもの思いは目に見えにくいものです。一人ひとりの子どもにはそれまでの生き方があり、家庭環境があり、学んできた成長があり、今があります。教師は「学校生活」という、その子の生活の一部でのかかわりでしかないことを忘れてはいけません。

だからこそ、子どもから学ぶスタンスで、「子どもの思いを見取ろうとし続ける」ことが大切なのだと思います。そして、自身の見取りが決して正解ではないという謙虚な姿勢も大切ですね。そうやって丁寧に子どもと向き合う姿勢こそが子どもに伝わり、子どもとの関係性を築くことにつながることでしょう。子どもとの関係性が豊かになることは、子どもの思いを見取る上で大切な要素になります。

さあ、子どもが生き生きと主体的に学ぶ姿があふれるために、肝心な「子どもの思い」を見取り続けていきましょう！

②子どもウォッチング！

●朝のウォッチングは最高！

ありとあらゆる場面で「子どもウォッチング」を心がけたいものです。私が特に大事にしていた時間が朝の登校時です。

「おはよう！」
「ヤッホー！」
「先生！ニュース、ニュース！」

子どもの素に近い姿を見ることができるので、必ず教室で子どもを出迎えるようにしていました。

挨拶の仕方一つで「今日も元気だな」「何かあったかな？」など、子どもの様子を感じ取ったり、誰と一緒に登校しているか、登校後に誰と誰がかかわっているかなど、関係性の様子を見取ったりするためにも有用な時間です。何より、「ニュース！」など、調べてきたことを嬉しそうに報告に来て、教卓に子どもたちが集まってくる、教師にとって最高といえる至福の時間の一つです。朝から学びの輪が広がります。これも見取りの一つですね。

●ウォッチングの注意点

「子どもウォッチング」を続けていると、年度当初は新鮮な目で見取り、その子の良さや目指す姿を描いているものの、次第にかかわりが増すことで見方が一面的になってしまうことがあります。

また、経験を積んでくると、「この子は以前のあの子と傾向が同じだ」という思考になってしまうこともあります。特にその子に課題が見つかった時など、マイナスな事象があった時ほど、この傾向が見られます。同じ子など決していないのです。

マイナスな見方が多いなと感じた時は、ぜひ同僚とその子について語り合いましょう。見取りを交流することで、自身の「子ども観」も磨かれていきます。

●具体的な姿を見取る！

Case① 子どもの発言場面

C：私はやっぱり〇〇について反対です。
T：：ねばり強く考えているね。
C：米作りですが、建物ばかりかと思っていた東京都でも、お米はつくられていました。
T：東京都でつくられていることが驚きなんだね。

赤字の部分に発言の思いがこもっていると感じます。

Case② Aさんふり返りノート（生活科）の記述

●2月1日
「Bさんとどんぐりゴマをつくった。つぎは、もっと長くまわるようにしたい。」
●2月３日
「どんぐりゴマがきれいにまわるようにいろぬりをつづけたい。」

T：コマの回る時間からデザインへの思いに変容している。その根拠を聞いてみたい。

活動の具体的な変容を見取ることで、根拠を問うことができます。

Case③ 日常の様子から（音楽室への入室時）

「Uさん、早くおいでよ」と、みんなから声をかけられています。「わかった、わかった。」と言いながら、Uさんは自分の上履きを脱いで揃えようとした時に、脱ぎ捨ててあった仲間の上履き数組が目に入ったようでした。急ぎながらも、その上履きを揃えてから入るUさん。

脱ぎ捨てた上履きを注意することより、それ以上に価値のある「本当のやさしさ」を学ぶ機会になると感じた場面ですね。

これらのCaseのように、「子どもウォッチング」では、子どもの具体的な言葉や姿を捉えることが大切です。そして、その具体を通じて子どもに価値付けすることで、子どもの喜びや「自分もやってみよう」という実感につながることでしょう。

③見取る視点を自分なりに持つ！

●型にはめず、柔軟に、継続的にブラッシュアップ！

ちなみに、私なりの見取るための視点は以下の通りです。もちろんこれが全てではありません。単元の構想を練る時などの視点としてまとめたものです。

- ●学校生活全般の様子
  （登下校・給食時・友達との関係性・変容など）
- ●学びの姿
  （発言・ノート記述・しぐさ・つぶやき等）
- ●家庭環境や保護者との連携を通した見取り
- ●何だか気になる（輝く個性！教師の直感！）
- ●願うその子の姿を通した見取り（中・長期目標）

自身の見取りを通して、自分なりの視点を多く持ち、常にブラッシュアップしていけるとよいですね。

さて、冒頭のＨさんの発言の意図は？

Ｈさんの卒業文集より…

卒業文集に「別れたくない」という題名を付けたHさん。学習の知識はある子ですが、交友関係に悩んでいました。６年生になり、行事等のかかわりを通して変化が見られてきました。

「みんなが受け入れてくれたから自分に自信が持てた」（Ｈさんの文集より）

私は、「仲間のやさしさを感じたＨさんだからこそ、『(市民の）税金をこのイベントで本当に使ってよいのだろうか』と周囲（市民）の思いを考えたのではないか」と思い、そのことをＨさんに投げかけました。涙目でうなずくＨさんを見て、みんなが大切なことに気付かされました。「演劇発表を絶対に成功させて、地域に恩返しをしよう」と、さらに気持ちが高まりました。Ｈさんの姿に、子どもたちみんなも私も学んだ瞬間です。

次ページからは、「YUKIKOの部屋」担当の武藤由希子先生による4年生社会科の実践です。武藤先生が日々どのように子どもを見取り、学びにつなげているか、学びの様子をご覧ください。

（横浜市立箕輪小学校　大滝 文平）

見取りを生かした学習をつくろう！

4年生　9月～10月初旬実施

単元名　自然災害から人々を守る活動
（全8時間）

〈実践者〉横浜市立本牧小学校　武藤 由希子

Prologue 見取るって難しい！

子どもたち一人ひとりには、得意なことや苦手なこと、好きなこと、嫌いなことがあります。日々、様々な行事や出来事がある中で、全員の子どもたちがどのようなことを考えているのかを見取っていくのは簡単なことではありません。どうしたら、子どもたちに寄り添った授業ができるのでしょうか。

Scene 1 子どもを見よう！子どもと話そう！

子どもの実態に合わせた授業にしていくために、まずは日々たくさん見たり、話したりして、その子がどのような性格なのか、どのような思いや願いを持っているのかを見取ります。一緒に学習したり、遊んだりしている中で、どんなことに興味を示しているのか、どんな活動をすることが好きなのかが段々とわかってきます。

子どもの行動や表情を見て、言葉に耳を傾けると、授業に生かせることがたくさん見えてきます。授業中はもちろん、休み時間に話したこと、日記に書いてあることなど、ふとしたことが子どものことを知る手がかりになります。日々、子どもを見取り、見取ったことを授業に生かしていきます。

> **子どもの見取りから学びをつくるポイント①**
> 子どもを見て、話して、学んで、遊んで、あらゆる時間の見取りを学習に生かす！

Scene 2 単元前のアンケートで見取る！

単元に入る前に単元にかかわる知識や関心がどれぐらいあるのか、その知識はどのような経験から得られたものなのかなど、単元構想をする際にアンケートを取ることがあります。子どもの実態を見取り、その実態に合った単元を構成するためです。

「自然災害から人々を守る活動」の単元では、「家で災害への備えをしているかどうか」について、「している」「していない」「わからない」のアンケートを取りました。その結果、「わからない」の回答の数がいちばん多かったです。

また、そもそも自然災害が何なのかを知らない子もいました。東日本大震災の時に、まだ生まれていない子どもたち。災害への意識があまり高くないことがわかりました。

そこで、この単元を通して、人々が自然災害に対して協力して対処してきたことや、今後の備えをしていることを、よりわかりやすく、実感的に捉えられるようにしたいと思いました。

そのために、体験活動や見学・インタビューなどの調査活動を単元の中に多く取り入れることにしました。そして、単元の終末には、子どもたちの防災に対しての意識を高め、いつ起こるかわからない災害に対しての備えや考えを持つことができるようにしたいと考えました。

> **子どもの見取りから学びをつくるポイント②**
> 単元前の事前アンケートで子どもの実態に沿った単元を構想する！

Scene 3 見取りを生かした導入！

事前アンケートから、自然災害とは何かを知らない子がいることがわかったので、過去に起きた実際の写真を子どもに提示することにしました。子どもたちは、災害の写真をいくつか見て「これが実際にあったの!?」と驚いていました。少しずつ自然災害への関心を抱きつつあるのを感じます。

次第に、「そういえば、台風の時に…」「東日本大震災の時に、お父さんが…」と、自分が経験したことや、家で聞いた話などを子どもたちが話し始めました。一人の子どもが話し始めると、たくさんのエピソードが出てきます。意識していなかったけれども、自分たちの住んでいる地域でもこれまで災害は起こっていて、今後もいつ起こるかわからないと、友達との具体的な話の中で感じている子がたくさん出てきます。こうして、災害について知りたいことや疑問が出て、子どもたちの学習計画を立てることができました。でも、まだどこか危機感は薄く、切実感はあまりないように思います。

> **子どもの見取りから学びをつくるポイント③**
> 子どもの見取りから「知りたい!」「調べたい!」の姿を想起し、インパクトのある導入を！

Scene 4 この子に必要な学び！ ～体験を通してより実感的に～

社会科では、子どもが切実感を持って学習する姿がより深い学びにつながります。神奈川県の自然災害への関心は抱いたものの、自分たちの生活とつなげて考えている子は少なかったです。

「ふり返りノート」では知りたいことや疑問が書かれているものの、自分から調べてきた子や学習後に自然災害について話題にする子は、まだあまりいませんでした。

そこで、体験をして、より実感的に災害について考えて欲しいという思いで、地域の防災センターに行くことにしました。防災センターでの体験学習と子どもの感想を紹介します。

○ 過去に実際に起きた地震の体験

「こんなに揺れるの!?
立っていられないよ」
「こんな大きな地震が
きたら、怖くて動けない」

○ 減災トレーニングルーム
自分たちで判断して行動する体験

「地震が終わって安心して
いたら、火事が起きて
パニックになった」
「できると思っていたけれど、
実際に考えて行動するのは難しいな」

防災センターでの体験や、消防士の方の話を通して、子どもたちの防災への意識が変わっていきました。「地震の怖さを家の人に話したよ！」「どんな備えをしているか聞いてきたよ！」と、学びを通して行動する子が出てきました。

言葉ではわかっているつもりでも、実際の災害の怖さや、落ち着いて行動する難しさを感じていました。

> **子どもの見取りから学びをつくるポイント④**
> 学びの姿を常に見取り、必要な学びを柔軟に取り入れて改善を図る！

Scene 5 見取りを生かしたからこそ ～クラスに広がる主体性の輪！～

防災への意識が高まってきたところで、地域の防災マップを見て、自分たちの住んでいる地域はどのような災害が起こりやすいのかを調べることにしました。

「もし、地域で災害が起きたらどのように行動したらよいのか」という学習問題ができました。子どもたちは、これまで学んだことを生かして考えようとします。

しかし、避難場所に避難をすることはわかるのですが、そのほかにどのような備えをしたらよいのかや、避難場所でどのような行動をしたらよいのかはわかりません。子どもが「何としても解決したい」という思いが高まっているのを学びの姿から感じます。

そこで…、

体験ではわからないことや、さらに出てきた疑問を区役所の方に聞く機会を設定しました。市ではどのような災害の備えをしているのか、災害が起きた時どうするのか、様々な人と助け合っていくことの大切さを話していただきました。

直接話を聞くことで、より詳しい情報を得ることができるだけでなく、その人の考え方から自分の考え方を見直すことができます。

子どもの見取りから学びをつくるポイント⑤

子どもの切実性を見取り、深い学びにつながる資料提示や人と出会う場面を設定する！

Scene 6 子どもの見取りを通した「単元のまとめ」

さらに学びは続きます。これまで学んできたことから、自分たちには何ができるかを考えました。

- ●まずは関心を抱くこと。自分で考えること。
- ●どこにどのように避難するかを家族で話をしておく。
- ●いつどんな災害が起こるかわからない。水や食料、防災バックなどを日頃から備えておく。

など、これまでの体験や話を聞いたことをもとに考えていることがわかります。

災害は昔から起こり、その度に人々は対策をし、困難を乗り越えてきました。災害は、今すぐ起こるかもしれないし、数年後かもしれない、数十年後かもしれない。いつどこで起こるかわからないからこそ、危機感を持ち、備えておくことが大切だということを子どもたちは考えていました。

子どもの見取りから学びをつくるポイント⑥

学びの姿を長期的に見取ることで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげる！

Epilogue 単元が終わっても学びは続く！～さらに広がる主体性の輪！～

単元が終わってからも、

「先生！何か災害があった時にどうするかを家で話したよ！」

「水と食料を準備したよ！」

実際にすぐに行動する子ども。行動はしていないけれども、災害への意識が高まった子ども。学びはそれぞれです。単元後も、子どもたちの学びは続いていきます。これが学びの成果であり、教師の仕事をしていて嬉しいことの一つです。

学びを通して子どもたちが変容したり、成長したりする姿を見ることができます。時には、自分の成長に子どもが気付かないこともあります。子どもを見取り、たくさん褒め、価値付けし、子どもたちが「嬉しい！」「楽しい！」「もっと学びたい！」と思える授業を、これからも目指していきたいものです。

◆ 今回のエッセンスポイント

●日常の姿を「見取り単元づくり」に生かす！
●子どもの学ぶ姿から柔軟に単元の構成を変えることで「主体性アップ！」

武藤先生の見取りのポイントは、学習場面だけではなく学校生活全体に及んでいます。また、見る、話す、一緒に学ぶ、遊ぶ、と教師が貪欲に見取ろうとしていることがわかります。これはp.3に記した、私の見取る視点とも似ている部分です。「子どもをあらゆる面から知ろうとすること、そして学びに生かす」、これが、今回のテーマ「子どもの見取り」の最も大切なことであると感じました。

また、事前のアンケートが有効に働いています。「自然災害の備えをしているかわからない」という子どもが多いことや、自然災害そのものを知らない子どもがいることを把握したことで、その実態に沿った導入（実際の自然災害の写真を提示）がつくられたのです。さらに、日々の学びの様子から体験活動を取り入れたり、ゲストティーチャーを呼ぶタイミングを図ったりしています。これこそが、子どもの学ぶ姿からの「授業改善」といえます。「先生！何か災害があった時にどうするかを家で話したよ！」、単元が終わった後にこのような姿が見られることが、子どもの見取りを大切に行った何よりの成果ではないでしょうか。

さて次号は、「YUKIKOの部屋」にあるように、「教材研究」がテーマです。今回の「子どもの見取り」とセットにして考えて欲しいと思います。セットにすることの意味については、次号で詳しく説明します！

みんなで楽しく学ぼう！ 先生たちの勉強の場（今年で6年目）紹介！

社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場（きたまなば）」

横浜市北部（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の社会科有志が中心となって発足した、緩やかな勉強の場です。発足して6年目になりますが、今では、横浜市内・市外の初任者を初め、経験の浅い先生、中堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味がございましたら、連絡（メール）をいただければ、案内のチラシを送らせていただきます。

私と北学場（参加者の声より）

勉強会という堅苦しい雰囲気では決してなく、社会科を中心にしながら、「もっと子どもが発言するには？」「気になる子にどう接してます？」など、日々の学校生活で感じる悩みや疑問を参加者で和気あいあいと話し合っています。これからも、北学場でたくさんの先生方と語り合うことを楽しみに参加したいと思います。

北学場
〈連絡先〉大滝 文平
bunpei_o@yahoo.co.jp

教材のヒントは日々の生活の中に

YUKIKOの部屋

Check point!

Q 研究会に参加すると、独自の教材での提案をする方が多くいますが、教材研究って、いつ、どのようにやっているのですか？

A 日々の業務もたくさんある中で教材研究をするのは大変ですよね。私もこれまで先輩の先生方にたくさんアドバイスをいただきながら教材研究をしてきました。

教材研究で大事なのは、まずは先生自身がワクワクしながら教材研究をすることだと思います。調べていく中で、「面白いな！」「えっ！そうだったのか！」と驚いたり、「どうして？」「もっと知りたい！」と興味を示したりしたことが、子どもも面白いと思うポイントになります。私は、面白いことを見つけると、同僚や家族などに嬉しくなって話していました。

教材研究の進め方として、私は学習指導要領や教科書を読んでから、まずはとことん調べます。通勤中のまちの様子、子どもたちや同僚との話、家族や友人との会話、テレビやインターネット、書籍…。今まであまり意識していなかったので気付かなかったことでも、アンテナを立てておくと、日々の生活の中に教材のヒントになるものがたくさんあります。

次号では、そのような教材研究について、さらにみなさんと一緒に考えていきましょう！

（横浜市立本牧小学校　武藤 由希子）

※本冊子に掲載されているイラストは全てイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる（vol.02）

日文 教授用資料

令和5年（2023年）2月28日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33650

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690